

平成 27 年度 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 成果報告書Ⅰ
【インクルーシブ教育システム構築モデルスクール】

教育委員会名

滋賀県湖南市教育委員会

概 要

モデルスクールの概要（平成 28 年 3 月 1 日現在）

	モデルスクール名	在籍者数	教職員数
1	湖南市立水戸小学校	401 名	30 名
2	湖南市立日枝中学校	334 名	31 名

【事業概要】

1. モデルスクールの特色（特別支援教育に関する事項）

水戸小学校は、平成 25 年度、26 年度と本事業を受託し、インクルーシブ教育システム構築や合理的配慮の提供についての実践を重ねてきた。個別の指導計画を作成している児童の割合が 25%と高く、授業や集団づくりに特別支援教育の視点が欠かせないことが教員の間に根付いている。個別の指導計画を作成している児童は、就学前、或いは就学後に市の発達相談を利用している。発達支援システムを活用し、子供の実態や成長に伴ってアセスメントを見直し、個別の指導計画に反映させて合理的配慮の提供をしてきたことで、保護者の特別支援教育に対する理解や期待も大きい。このような素地を生かして研究に取り組むことにより、保護者と連携した取組を一層進め、前年度からの課題である「基礎的環境としての集団のありかた・授業のあり方」について研究を深めつつ、合理的配慮の充実をめざした。

水戸小学校の児童が入学するのが、日枝中学校である。数年前には、生徒の発達特性に起因する問題行動が頻発する学校であったが、全職員による特別支援教育の視点に立った授業作り、生徒指導、学校環境作りに取り組み、落ち着きを取り戻している。これらの取組に大きな効果を発揮したのが年度当初の特別支援教育研修と、全教員の授業公開・参観である。中学校のこれまでの取組を、インクルーシブ教育システム構築の視点から整理し、合理的配慮の決定や提供について研究したことを市内各中学校に発信することをねらいとして指定した。

2. 取組の概要

【教育委員会がモデルスクールに対して行った取組及び支援】

外部専門家として、心理学分野、教育学分野から 1 名ずつ専門家を招き、研究協議会を開催した。心理学専門家からは、特に対象児童生徒のアセスメントに関することや、自立活動の観点による実態把握に関すること、合理的配慮の実際について助言をうけられるようにした。教育学専門家からは、授業づくりの中でも少人数の学び合い(グループワーク)を取り入れることと、全ての子供が参加し、理解するための支援について、授業分析を中心として助言を受けられるようにした。

モデルスクール小学校・中学校を行き来する合理的配慮推進員 1 名と、モデルスクールに 1 名ずつ合理的配慮協力員を配置し、児童生徒のアセスメントや合理的配慮の決定、実施、個別の指導計画への反映について助言を受けながら取り組めるようにした。それぞれの経験に基づく担任教員への助言と、特別支援教育コーディネーターへの助言を行うとともに、合理的配慮推進員には市の IT ネットワークも利用できるようにした。

モデルスクールを会場として、インクルーシブ教育システムと、障害者差別解消法についての研修会を開催し、市内の保育士教職員への周知を図った。加えて特別支援教育コーディネーター会議では、障害者差別解消法と対応指針についての研修の場を持った。

モデルスクールの取組について、学校や合理的配慮推進員、合理的配慮協力員からの情報を写真資料等で提供を受け、成果物としてまとめた。また、市内の保幼園、小中学校とことばの教室、社会福祉課発達支援室、県立三雲養護学校参加のコーディネーター会議で報告する場を設けた。

【モデルスクールとして行った取組】

・水戸小学校

(1) 校内就学支援委員会の充実

就学支援について保護者への十分な情報提供を行った。就学先を考える前に、特別支援学校、中学校通常の学級、特別支援学級を見学・体験できるように計画的に取り組んだ。その上で子供が最も力を発揮できる環境に就学できるよう、保護者にはたらきかけた。

(2) 「子どもを語る会」の開催と職員による共通理解

「子供への関わり方」「必要な支援や配慮」を軸として会議を持つことで、対象児が集団での活動に入りにくいときに、担任以外の教員による対応が実現した。

(3) ケース会議の開催と関係機関との連携

市の発達支援システムを活用し、関係機関を招いてのケース会議を開催した。必要に応じて学校以外の機関も入ってのケース検討を行った。

(4) 教科教育と特別支援教育の連携をめざした取組

国語科を窓口として研究を継続している。「授業の湖南市スタイル」を取り入れ、どの子も参加できる授業づくりの段階を経て、支援を必要とする児童が、学習のめあてを達成できるための合理的配慮のありかたについて研究を進めた。

(5) 個別の指導計画の保護者への提供

個別懇談の機会を活用し、個別の指導計画の内容を説明して手渡した。保護者との懇談について報告をまとめ、個別の指導計画の作成・実践・評価について学校としての次年度への課題を明らかにした。

(6) 保護者との連携

事例それぞれに研究指定以前に発達相談や巡回相談を利用していたことから、保護者の理解は高い。事例の中では、保護者了解の上で、本人に合理的配慮について伝え、教育効果を上げた。

・日枝中学校

(1) 研修体制

専門性を高める研修会と授業研究会を開催し、教育委員会、推進員も参加する。

年度当初に、特別支援教育の視点を取り入れた学級経営、授業づくりについての研修会を実施し、全教員が特別支援教育の視点に立った授業づくりについて共通理解を図った。

(2) きめ細やかな引継ぎの実施とタイムリーなケース会議開催

年度末から年度初めにかけて、小学校担任、ことばの教室担当者から個別の指導計画を活用して引継ぎを実施している。様々な課題をもつ生徒について関係機関も入って校内ケース会議を開催している。役割分担を明確にし、短期目標を立てて計画的な開催となっている。

(3) 授業のユニバーサルデザインとしての取組

学び合いを取り入れた授業づくりを中心に校内研究を組織し、その上に支援の必要な生徒への合理的配慮を提供するという観点で取り組んだ。めあての提示や4人一組での交流学习を取り入れた展開、ふり返りの定着をめざした。

(4) 個別の指導計画、個別支援移行計画の作成と活用

小学校から引き継いだ個別の指導計画について、保護者の了解を再度確認した上で、提供した。3年生の事例については、進路先の高等学校に引き継ぐための個別支援移行計画を作成している。

(5) 合理的配慮についての合意形成

2事例共に、就学前からの長きにわたり湖南市発達支援システムを活用し、支援をうけてきたことから、合理的配慮の提供についても保護者から了解を得ることができた。自己理解についても、事例に応じて進めていった。

3. 成果及び課題

(1) それぞれの事例への合理的配慮の決定について

自立活動の観点から児童生徒の実態を整理し、様々な情報から総合的にアセスメントすることができた。アセスメント情報を個別の指導計画に反映させ、根拠に基づく合理的配慮の決定に役立てた。

「参加・理解・習得・活用」の視点では、「参加」のための基礎的環境整備や合理的配慮を充実させることができた。

合理的配慮を個別の指導計画に記載し、保護者に提供した。共通理解して次年度への引継ぎについても合意形成ができた。前年度対象児童の合理的配慮が引き継がれ、焦点化して提供されている例や、「多様な学びの場」として、特別支援学級の在籍を視野に入れ、体験を実施、次年度から入級へという事例もある。子供にとって最も力を発揮できる環境を、との思いを支援者、保護者が共有して取り組むことができた。

(2) 基礎的環境整備について

早期から発達支援システムを利用して支援を受けて来たこと、さらに支援を受けることの有効性を実感していることから、合理的配慮の提供に対してどの保護者も理解を示された。「湖南省発達支援システム」の定着によるものである。

授業スタイルを市内で統一した(授業の湖南省スタイル)。基礎的環境整備の一環として有効であった。中学校区で共通して取り組む内容を決め、統一して取り組めたことも成果であり、発達に支援を要する児童生徒が安心して授業に参加する上で重要であることが確認できた。

(3) インクルーシブ教育システムの周知について

研修会や冊子などで研究成果を紹介した。広報誌への掲載も継続予定であり、地域住民への啓発を継続していく。

【課題】

- (1) 児童生徒理解やアセスメント力の向上、個別の指導計画の内容の充実が欠かせないことが明らかになった。
- (2) 合理的配慮の蓄積により基礎的環境が整備されていくという視点に立ち、データベースの活用、湖南省ITネットワーク(KIDS)の活用などにより市内の合理的配慮に関する取組を交流していく。
- (3) 個人に必要な合理的配慮の焦点化のために、授業改善への取組を継続させる。
- (4) 多様な学びの場の充実に向けて、教育課程の編成や交流および共同学習について、研修していく。
- (5) 個別の指導計画の活用を図る。事例の引継ぎに加え、学校園単位での個別の指導計画の作成や活用のしかたについての引継ぎを丁寧に行う。
- (6) 心理学、教育学それぞれの専門家からの助言を得て、合理的配慮推進員、協力員による助言・記録集約等を行った。今後も専門家を招いた研修会の企画、市内教員、学習支援員対象の研修の開催、特別支援学校やことばの教室等が中心となった研修や事例検討を行い、市内の特別支援教育の推進を図り、市内のインクルーシブ教育システムの充実を目指す。